

さくら第459号

平成30年3月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: TEL.51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

他人の物指し
自分のものさし
それがれず法が
ちがうんだな

『豪雪で思う、当たり前とありがとう』

『天災は忘れたところにやってくる』という言葉があります。平成30年2月5日からの一週間は37年ぶりという豪雪で福井県でも坂井市は特に積雪が多く、国道8号線ではあわら市と坂井市の10kmのなかに渋滞する車が2月6日から9日未明にかけて1500台以上となり、福井県では自衛隊に災害派遣出動を要請しました。

1000人あまりの隊員が昼夜を問わずスコップを手に必死で除雪する様子が上空などからも撮影され60数時間も車内に閉じ込められた人たちが連日にわたりテレビや新聞などで知らされました。近くの人たちがパンや飲み物やおにぎりなどを渡している姿もあります。

学校は6日から9日まで休校。そろばん教室も休みました、大雪になるとどの家も雪でおおわれ道は真っ白で歩くと膝はすっぽり雪の中。除雪車が何日もやってこずスコップとママさんダンプでひとかきずつ根気よく運ぶだけです。

せっかくキレイにしても数時間がたてばまた積もるのでがっかりですが、また気を取り直して除雪するしかありません。皆さんもきっと同じ思いと疲れを体験したことでしょう。

連休には青空が見え雪の降らない気持ちのよい時間となりましたが、ゆっくりする時間もなく家の周りの除雪が何時間も続きました。

13日には学校も始まりましたが通学路には雪が多く積り車がすぐ横を走るのでキケンですが、ようやくふだんの生活にもどったようです。

ところで、豪雪といえば昭和五六年の『ごろくごうせつ』であり、この時の生活は今以上に大変でした。コンビニエンスは無くケイタイ電話など見たこともなくそれはそれはたいへんでした。さらに昭和三八年の『さんばちごうせつ』は今までにない大雪となり歩く道は雪でふみかたまり電線を手でつかめるほどでした。

この時も自衛隊の人たちによって除雪され生活がなんとかできた状態でした。会社へ行くには二時間も歩いて通う人が多くいました。

さて、福井県が2月22日にまとめた情報によれば、最大積雪は福井市で2月7日に147cmとなり、屋根雪おろして転落死する人や、車の中で眠ってしまい、降り続く雪で車の排気ガスを出すマフラーが埋もれてしまい、一酸化炭素中毒で3人が亡くなるなど12人が死亡。重傷者23人、軽症者79人が病院へ運ばれるなど、大変な状況のなかで毎日が過ぎました。

大雪のなかで過ごすことでいろいろな出来事がありました。除雪車がなかなかやってこずイライラする人は市役所などへ電話して催促しますが、除雪順があり狭い道は後回しです。

やっと来た除雪車の運転手に「遅い」と文句を言う人がいたと聞きます。除雪すれば道の端には雪の固まりができるので、それをきれいに片付けるという人もいたようです。

朝の通学路にやってきたある女子は「ありがとうございます」と言って通りすぎました。とても嬉しくなり気持ちがいいです。

『ありがとう』の反対の言葉は「当たり前」といいます。何をしても、するのが当たり前でしょうと言われると嬉しくありません。毎日の食事の準備や後始末、洗濯や掃除など、親がするのは当たり前と思っている人はいないと思いますが、もし、立場が逆ならばどうでしょうか。除雪のために寝る時間を削ってがんばる人たちは当たり前と言われずに「ありがとうございます」と声をかけられると、元気がでます。何をしても当たり前ではなく、何事にも「ありがとう」の気持ちで接していくと、みんなが嬉しくなりますね。